

テーマ「山口きらら博」

期間2001年7月14日から9月30日まで開催

テーマは「いのち燦（きら）めく未来へ。」

海に面した会場内を街のゾーン、やまぐちゾーン、スポーツゾーン、ゲートゾーン、テーマゾーン、ラグーンゾーン、アミューズメントゾーンに分け入場者にわかりやすくした。一番のメインイベントはきららドームで行われた山本寛斎プロデュースのパフォーマンスイベント「やまぐち元気伝説」でした。

山口きらら博では、パビリオン中心に珍しい展示物やショーを見せるといった従来の博覧会とはやや違った試みがなされている。その一つがテーマ設定である。従来の博覧会は未来を示す難解なイベントがある一方、やたらと学習的で固い内容、あるいはその横で子供向けのショーなどがあるなどごちゃ混ぜとなりがちだ。しかし、きらら博では親しみやすいものとし、県民参加を促すため、「元気」をキーワードとし、参加計画のコンセプトを「元気人間登場」とした。

山口きらら博は、そこに展示、紹介される先進技術よりも地域の明日に懸ける姿を前面に出し、県民参加を最も重要な柱と位置付けている。ここで主体的な役割を担っているのが99年11月に設立されたボランティア組織「きららネット」である。きららネットには、博覧会という一大イベントを自分達で成功させ、博覧会後も「21世紀のやまぐちをつかっていこう！」という元気人間達が集い、活動している。

この博覧会には県内各市町村持ち回りの「市町村の日」に参加する1万8千人、催事制作や展示制作への参加1万4千人、これに運営ボランティア6千人を加え、合計約3万8千人の県民が支えている。

折しもこの年は北九州市、福島県、そして山口県と3つもの大型博覧会が重なっている。博覧会ではそれぞれ理念・テーマを掲げるが、単なる一過性のお祭り騒ぎという批判も多く、博覧会は曲がり角にきているともいわれている。しかしながら、この「山口きらら博」は公園的な会場のつくりや明確なテーマ設定、住民参加といった従来の博覧会とは違った新しい傾向を感じさせるものがある。

入場者数：2,514,178人 ※入場者数の目標は200万人でした。



「きらら博」全景 航空写真



きららドームと児童公園



貝掘りのイベント